

10 月 10 日 AM6:30 県安曇野庁舎駐車場に 10 名が集合し、2 台の車で出発。天候は曇り。須佐渡を経由し、溪流沿いに蛇行する山道を走り、三股登山口へ向かう。駐車場は満杯状態。準備を整え AM7:40 出発する。常念への分岐を右に見て 30 分程登ると、豊富に流れ落ちる水場に到着。そこから鬱蒼とした森林帯の中、急坂の尾根道を小一時間登り続けると、まめうち平に登り出る。展望は効かないがここで小休止。



森林帯の急坂の尾根道を登る



前常念から常念岳本峰への稜線を望む。冷たい霧が一面覆い雪が降り出す



まめうち平からは緩やかな登りを一時間程で、最終水場に辿り着く。昨夜の雨の影響だろうか、沢の水が、勢い良く流れ落ちている。ここから、岩のガラ場の急坂を登り続けること一時間、徐々に高度が増し、視界が広がっていく。紅葉する木々の枝越しに、前常念から常念岳本峰への重厚な稜線を間近に望む。

森林を抜け、低木帯に登り出る頃、冷たい霧が一面覆い始め、雪が降り出した。冷霧の中、森林限界からハイマツ帯を辿っていくと赤い屋根が見えてきた。PM12:30 蝶ヶ岳ヒュッテ到着、泊す。早速、冷えた体を温め、熱い茶などを啜る。窓外は、深夜まで風が吹き荒れる。



東の空を赤く染めて太陽が昇る



初雪に薄化粧した槍、穂高岳への稜線が紅色に輝く



翌 10 月 11 日晴れ、強風の朝を迎える。東の空を赤く染めて太陽が昇り、初雪に薄化粧した槍、穂高岳への稜線を紅色に照らしている。朝食後、防寒具に身支度を整え山頂へ向う。AM7:15 蝶ヶ岳山頂に全員登頂。昨日展望できなかった、穂高岳の岩峰群が、目の前に聳え連なっている。槍ヶ岳の北方に、真白に冠雪した裏銀の山々が連なる。南に、乗鞍岳、御嶽山が昇る朝陽に照らされて、眩しく輝いている。



蝶ヶ岳山頂に全員登頂



穂高岳の岩峰群が、目の前に聳え連なる



寒風に吹かれながら、槍・穂を展望

AM8:00 下山を開始。名残を惜しみながら往路を引き返す。一時間程で最終水場、次の小一時間でまめうち平、ここで小休止する。さらに森林帯の急坂を降りて、AM11:00 水場に辿り着き、AM11:30 登山口に無事到着する。PM12:00 須佐渡の温泉地、「ほりで一湯」で昼食を摂り、一風呂浴びて汗を流し、再び車に乗り合わせ、PM2:00 県安曇野庁舎で解散とする。

「秋の蝶ヶ岳登山、素晴らしい展望の代償として冷たい風雪の試練を味わった。」登山講習だった。